

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 4 年 6 月 14 日現在

機関番号：32689

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2019～2021

課題番号：19K00121

研究課題名(和文) 鎌倉前期を中心とした浄土教学と浄土宗学の融合と思想史研究への発展

研究課題名(英文) Integrating the Research on the Pure Land Buddhism in the Early Kamakura Period with the Study of the Pure Land Sect of Buddhism

研究代表者

森 新之介 (MORI, Shin'nosuke)

早稲田大学・高等研究所・その他(招聘研究員)

研究者番号：80638718

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,000,000円

研究成果の概要(和文)：本研究によって、研究者であれば誰でも調査できるような大学図書館でもなお史料発掘の余地があることや、学界既知の史料であってもなお活用の余地があることを確認できた。また、法然房源空の主著『選択本願念仏集』が当初から浄土宗内で広く重んじられていたとか、源空はある夜の夢で半金色の善導と対面したとかの数百年来の通説にも修正を迫った。以上の成果は諸学会で研究発表し、査読付きの論文や研究ノート、校注などとして刊行した。

研究成果の学術的意義や社会的意義
多くの研究者に活用される醍醐本『法然上人伝記』の成立過程について分析し、勢観房源智に由来する箇所は全体の一部分だけらしいことなどを論証できた。また、鎌倉後期の作でないかとも疑われてきた『選択要決』は、嘉禎2年(1236)に源智が撰述したものと見てよいことを論証するとともに、学界未知の同書写本(佛教大学附属図書館浄教寺文庫蔵)を紹介翻刻して学界に便を供することができた。

研究成果の概要(英文)：This research project demonstrated the necessity to reconsider traditional theories on the Pure Land sect of Buddhism in early Kamakura Japan, such as the common ideas that the main work of Honen-bo-Genku was widely valued by his students and he met Shandao (Zendo) in a dream, who was half gold-colored. In addition, it was verified that some historical materials of significance owned at university libraries are still unknown to researchers, and even well-known materials can be newly interpreted. Such outcomes were publicized at several conferences and published as articles, research notes, or an annotation (many of them were peer-reviewed).

研究分野：日本中世思想史

キーワード：浄土教 浄土宗 法然房源空 選択本願念仏集 醍醐本 選択要決

1. 研究開始当初の背景

鎌倉前期の浄土教と浄土宗については、これまで汗牛充棟もただならぬほどに研究が積み重ねられてきた。しかしそれら研究は、数百年来の重厚な蓄積がある宗学に大きく規定されてきた。宗学は扶宗護法の学問でもあり、必ずしも公平中立なものでない。そのため宗学から学びつつも、宗学の枠組みを越えた思想史研究が必要である。

2. 研究の目的

本研究では、浄土教学と浄土宗学を融合させ、全体史としての思想史研究へと発展させることを目的とした。

3. 研究の方法

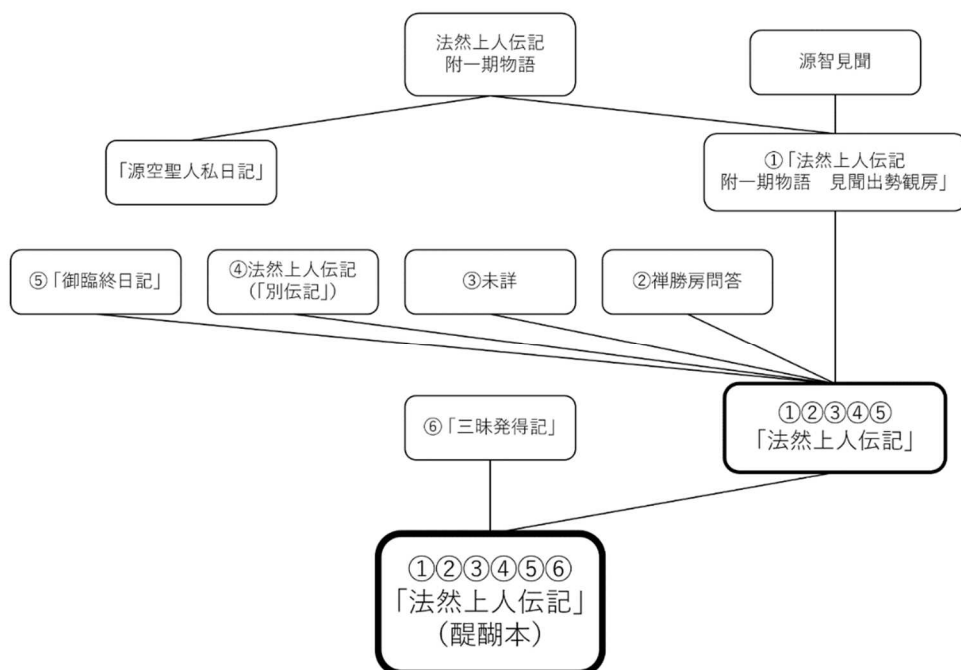
本研究の申請時は、報告者の所属する早稲田大学の図書館に架蔵されている活字資料を中心とした研究を予定していた。しかし第2年度、学界未知の佛教大学附属図書館浄教寺文庫蔵『選択要決』を発見し、複写物を請求入手したことで、非活字資料の利用価値をより深く認識するに至り、より十全な研究方法に転換できた。

4. 研究成果

(1) 醍醐本『法然上人伝記』の成立過程

醍醐寺三宝院で発見され、大正6年(1917)に望月信亨が紹介した『法然上人伝記』(以下、『醍醐本』と称す)は、浄土宗を立てた法然房源空(長承2年[1133]~建暦2年[1212])の語録や伝記など6篇から成る。

その成立過程を分析すると、以下のようになる。



※この図は、拙稿「醍醐本『法然上人伝記』の成立過程——篇題や識語などに着目して——」(『浄土學』五六、2019)所載の図を修正したもの

まず「法然上人伝記」1条と「一期物語」2条から成る法然上人伝記附一期物語(以下、「伝記付物語」と称す)の3条が存在し、これが「源空聖人私日記」の祖本にもなった。この「伝記付物語」3条に勢観房源智(寿永2年[1183]~暦仁元年[1238])の見聞が加わって、『醍醐本』第1篇となった。本文冒頭の「法然上人伝記/附一期物語 見聞出勢観房」という2行は、第1篇の篇題でありその構成を示している。そして編集当初の『醍醐本』は第5篇「御臨終日記」で終わっており、第6篇「三昧発得記」は後に追記された。以上が成立過程についての推測である。

また、第4篇「別伝記」は源空没後12年の貞応3年(1224)、山門からの訴訟で陳弁するため源空遺弟が作り、朝廷に提出した主題記だと考えられる。源空の高才博識を詳述する同伝は、愚鈍自由な源空という山門からの酷評を反証するために記事を集めたものであったに違いない。同伝は先行研究で隆寛の作とされることもあったが、それを裏付けるような徴象が弱く、文章もやや拙劣であり従い難い。貞応3年の山門訴訟で論人となったのは幸西と空阿であり、幸西が源空を擁護する伝記を作ったとは考え難いため、「別伝記」の作者は空阿でなかろうか。

「伝記付物語」は、本来その「伝記」であつたらう伝存の『醍醐本』第1篇第1条を4段に分けると、その第2段に幾つかの不審がある。同段を後人の増補として除外すれば、伝記箇所と法語2条は一貫して源空が山門と近く、また名利を求めなかったと強調し、浄土門に入ったと言うものの天台宗を出たと言わず、源空の師として皇円だけを挙げるものとなる。

この「伝記付物語」は貞応3年から3年後の嘉禄3年(1227)、山門からの別の訴訟で陳弁するために隆寛が作った主題記であつたらう。同伝は隆寛の作らしい箇所が多く、そうらしからぬ箇所は山門を刺戟しないために筆を曲げたものとすれば不審でなくなる。

(2) 法然房源空『選択本願念仏集』と初期浄土宗

源空は、九条兼実からの懇請により『選択本願念仏集』1巻(以下、『選択集』と略す)を撰進した。寡作であつた源空にとって、主著と称し得るものはこれ以外にない。

『選択集』を源空が生前非公開としたのは、議論を厭い避けたかつたからであろう。源空は叡山黒谷でその称念勝行説などについて師の慈眼房叡空と諍い、打擲されたことがある。『選択集』を生前に公開して再び同じような議論になることを恐れたに違いない。

本来兼実への形見の要文集であつた『選択集』を、源空は生前一部の弟子に開示した。開示されたことが確実な弟子は長楽寺隆寛や成覚房幸西、源智などであり、顧慮すべき特別な弟子に初学書として開示されたと考えられる。

源空没後に『選択集』が公開されると、それまで源空の思想を風聞でしか窺い得なかつた宗外の僧たちから反響があつた。この書を読んで、ある者は憤慨して破文を作り、ある者は讃歎して念仏に帰した。他方、宗内では『選択集』が仏経のように崇重され、隆寛や源智に顕彰擁護されたものの、同書は俗人浅機のために著わされた方便の書だとして軽んじる者もいたという。

源空から『選択集』を開示されていた隆寛と源智は、自分こそが同書を付属された高弟だなどと主張することはなかつたらしい。しかし、源空没後25年ほどで聖光房弁長と親鸞が、自分は師から『選択集』を付属されたとか、自分は同書の見写を許された高弟数人の一人であり師の真筆も得たとか主張するようになった。

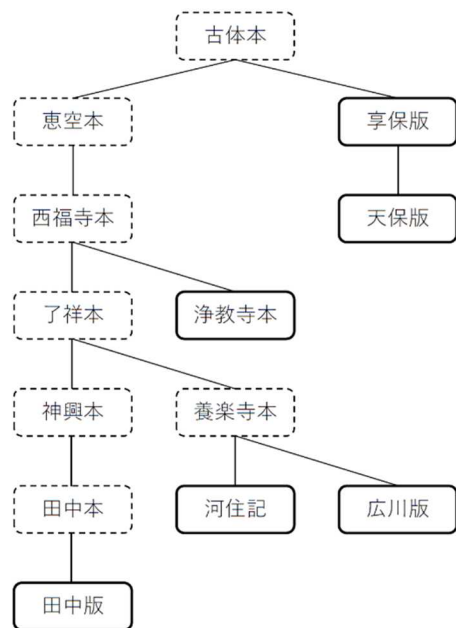
このように『選択集』は形見として撰進され、初学書として開示され、そして付法書として誇張されるようになったと考えられる。

(3) 『選択要決』の撰者と成立過程

『選択要決』1巻(以下、『要決』と略す)なる仏典が今に伝わっている。源空が世を去つてから第25年、一部遺弟が先師の遺著『選択集』に難を加えるようになったため、同門としてその難破十種を決択したものだという。

義山良照が首唱した『要決』源智撰説は、その後に発見された『醍醐本』などによって考えても妥当である。『要決』撰者が源空から面受したという『選択集』生前非公開の厳命などは、明らかに源智見聞と一致する。また、『要決』が善恵房証空の『選択集』執筆説を建久9年時の年齢などによって決択したのは、撰者源智が源空に近侍するより前のことをよく知らなかつたためであろう。疑いを挟みつつ「伝記付物語」を援用した理由も同じだと考えられる。これらのことから、『要決』は源智が嘉禎2年(1236)に撰述したものとして疑いない。

なお、『要決』諸本の伝写系統を図示すれば右の如くなる。



※実線本は現存、破線本は亡佚または所在不明

(4) 日本仏教史研究と法難論

日本仏教史研究では、これまで「法難」という語がよく用いられてきた。だが、源空や親鸞、日蓮の受難を「法難」とする今日の用法は歴史が浅く、しかも伝統宗学や官立史学から発生したものでない。在家日蓮信者の田中智学に由来し、基督教者の内村鑑三に転用され、やがて宗学者や史学者も用いるようになったものだと考えられる。これが中立公平な研究で用い得る分析概念かは、懐疑されるべきであろう。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計3件（うち査読付論文 3件／うち国際共著 0件／うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 森新之介	4. 巻 62-2
2. 論文標題 『選択本願念仏集』と初期浄土宗 形見から初学書、そして付法書へ	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 佛教史学研究	6. 最初と最後の頁 52-70
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 森新之介	4. 巻 58
2. 論文標題 最初期源空諸伝の形成過程 山門からの訴訟などに着目して	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 浄土學	6. 最初と最後の頁 113-130
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 森新之介	4. 巻 26-1
2. 論文標題 善導源空夢中対面説の創作と転用 地理条件や半金色に着目して	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 日本宗教文化史研究	6. 最初と最後の頁 27-43
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計4件（うち招待講演 0件／うち国際学会 0件）

1. 発表者名 森新之介
2. 発表標題 『選択要決』の伝写過程と学界未知の浄教寺本
3. 学会等名 浄土学研究会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 森新之介
2. 発表標題 法然房源空『選択本願念仏集』と初期浄土宗
3. 学会等名 佛教史學會5月例会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 森新之介
2. 発表標題 興福寺奏状と斬首配流事件についての整理と提言
3. 学会等名 近世宗教史研究会拡大例会シンポジウム「後鳥羽院政期の事件としての建永の「法難」 歴史と思想から考える 」
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 森新之介
2. 発表標題 蓮胤鴨長明の往生思想
3. 学会等名 東アジア仏教研究会令和元年度第2回（通算第36回）定例研究会
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

森 新之介 (Shin'nosuke MORI) - マイポータル - researchmap https://researchmap.jp/m80638718/
--

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------